

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	11
都道府県名	埼玉県

【 】
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	さいたま市立片柳中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 22
学級数	3	4	4	0	11	
生徒数	117	158	144	0	419	

研究の概要

(1) 研究主題

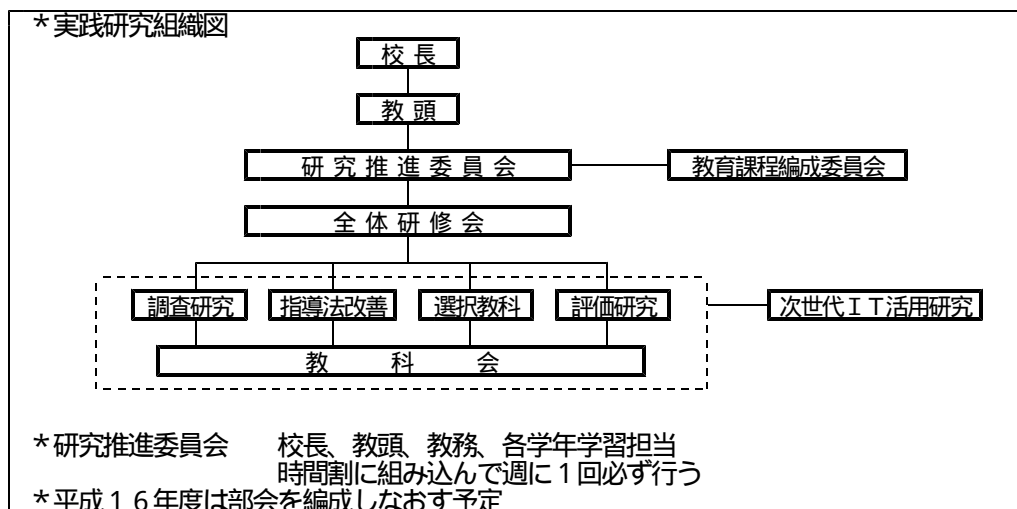
「個に応じ、個を伸ばすための指導方法・指導体制の工夫改善の研究」
- 創意を生かした教育課程を編成し、生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるための実践研究 -

(2) 研究主題設定の趣旨

生徒一人一人にきめ細かな、個に応じた指導の充実を図るための指導方法、指導体制の工夫・改善を行えば、生徒は意欲的に学習に取り組むようになり、確かな学力を身に付けることができる。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



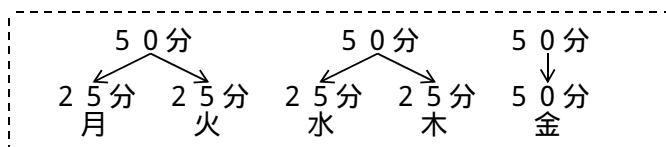
(2) 研究の実際

モジュール授業について

本校では、「1単位時間の弾力的運用」に着目し、さまざまなモジュールの要素の中でも、「学習時間のモジュール化」に焦点を絞り、研究をすすめてきた。

「25分モジュール授業」のねらい

本校のモジュール授業は、1年生の数学と英語において、50分単位週3時間の授業のうち2時間を、25分ずつに分け、『毎日授業がある』という形態にしている。



これは、次のような教科の特性によるものである。

数学や英語は、短い時間でも毎日ふれることで学習効率が上がることが考えられる。特に学習内容が基本的な1年生の前期において、25分授業を組み入れ、毎日授業をすることは、確かな学力の向上を図ることに有効である。

また、このことは「毎日の家庭学習の習慣化」にもつながり、学力の定着をさらに高めることになると考える。

つまり、本校の「25分モジュール授業」のねらいは次のようになる。

毎日授業をすることにより、「学習習慣の定着化」ならびに、「確かな学力の向上」を図る。

本校モジュール授業のしくみ

「2-2-リバース制」の方法

小学校のように「学級担任制」の場合、「1単位時間の弾力的運用」は容易であり、多様な運用方法が可能になる。しかし、中学校の場合、「教科担任制」であるため、「1単位時間の弾力的運用」は容易ではない。モジュールのためにわざわざ時間割を組み替えることは、継続的かつ長期的な取り組みにならない可能性が高く、何より「時間割作成や授業時数カウントのスペシャリスト」の存在なしでは不可能である。

そこで、本校は「時間割作成が簡単で、中学校でも可能」しかも「1年の数学・英語において、毎日授業が可能」なモジュール授業のしくみを研究した。それが「2-2-リバース制」である。

このしくみは、「2クラスをセットにして、2教科（数学と英語）が同一時間になるように時間割を組み、25分たったところで教員が入れ替わり、授業をする」というシステムである。

時間割例

下に、実際の1年1組と1年2組の時間割を具体例として示す。

	1年1組					1年2組					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
1	技家	理	数/英	理	体	1	社	技家	英/数	国	体
2	技家	音	国	英/数	社	2	国	技家	美	数/英	国
3	数/英	国	体	国	理	3	英/数	社	体	音	数学
4	社	道	美	音	英語	4	理	国	音	理	社
5	体	英/数	学	総	数学	5	体	数/英	学	総	理
		社		総	国			道		総	英語

上のように、月曜日から木曜日に1時間ずつ「数/英」（または「英/数」）を確保する。例えば、月曜日の3時間目に1組が「数/英」、2組が「英/数」となっているが、これはまず1組では数学、2組では英語の授業を行う。25分たったところで教員が入れ替わり、残りの25分を1組では英語を、2組では数学の授業を行う。この形式で1週に25分授業を4回行い、金曜日には50分の授業を行う。

また、このような時間割の組み方であれば、時間割を組み直すことなく、50分授業に変更することが可能であり、学習内容に応じて適した授業時間を選ぶことができる。（昨年度は、11月の第4週より、週3回の50分授業に変更）

なお奇数クラス数の学年では、「数学の時間は英語教員が空き時間、英語の時間は数学教員が空き時間」となるように時間割を組めばよい。本校の「2-2-リバース制」はクラス数に左右されず、何クラスでも可能である。

(3) 研究の成果と課題

*成果

モジュール授業を実施しなかった学年と実施した学年の学力を学力到達度調査（さいたま市2年生対象）での同じ問題（正の数と負の数の四則）で比べてみるとモジュールを実施しなかった学年は通過率83.8%（市平均86.8%）実施した学年は93.8%（市平均86.0%）ととてもよい結果がでている。等式の変形でも、実施しなかった学年40.5%（市平均49.2%）実施した学年62.5%（市平均50.0%）と良い結果が出ている。

*課題

学力向上のためには少数の教科の授業改善、あるいは少数の教員の意識改革では向上しない。全教科、全教員の意欲が生徒を変え学習意欲を高め、学力向上へつなぐと考える。そこですべての教科で考えて実践しているステップアッププランやドリムプランの充実、実践によりさらにいきいきとした授業展開が必要と考える。

(4) 研究成果の普及の方策

平成15年11月18日中間発表会
 ・紀要作成・リーフレット作成
 ホームページ作成
 他校への説明・成果普及
 7月 名古屋市立浄心中学校(1名)
 10月 千葉県千葉市教務主任会(26名)
 宮城県名取市増田中学校(2名)
 愛知県一宮市教頭会(6名)
 11月 富山県平村立平中学校(1名)
 沖縄県石川市校長会(6名)
 愛知県名古屋市立猪高中学校(1名)
 12月 静岡県清水市清水第五中学校(1名)
 1月 静岡県沼津市教育振興会(6名)
 長崎県東彼杵町立彼杵中学校(1名)
 静岡県富士市立吉原第三中学校(1名)
 長崎県新魚目町立北魚目中学校(1名)
 宮城県名取市立第二中学校(2名)
 2月 愛媛県今治市教育長・学事係長
 雑誌への掲載
 内外教育 5月30日号
 《25分授業、少人数指導で個を伸ばす》
 小学館「総合教育技術」10月号
 《『学校行事レイアウト力』を高めるための校内研修のポイント》
 教育開発研究所発行「教職研修」11月臨時増刊号
 《必要な指導時間をどう確保するか》
 《習熟度別指導の実施と運営》
 明治図書「学校運営研究」12月号
 《モジュール日課表の導入》

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】
 一単位時間の弾力的な工夫により個に応じた指導の充実を図る研究に取り組んだ。時間割作成が用意で中学校でも可能であり、1年の数学・英語において、毎日授業が可能なモジュール授業のしくみを開発した。
 毎日授業があることにより、学習習慣の定着化が図られ、確かな学力の向上につながることを検証した。